

「東京臨海地域における安心安全のまちづくりを推進するロードマップの作成」プロジェクト

代表者 佐藤宏亮【准教授】（工学部建築工学科）

構成員 村上公哉、秋元孝之、清水郁郎（工学部建築工学科）

プロジェクトの概要

豊洲・有明・東雲・晴海などを含む東京臨海地域は東京オリンピックに向けてインフラの整備が行われ、マンション開発も旺盛であり、急激な土地利用の転換が見込まれている。また、海外からの観光客や外国人居住者の増加が見込まれ、多様性に富む地域となりつつある。しかし、新しい都市づくりが進められる一方で、高密度居住に起因する災害時のBCP（Business Continuity Planning）やLCP（Life Continuity Planning）の確保、子供の安全な遊び場環境の創出、高齢者が安心して外出できる環境の充実、多様な主体によるコミュニティ形成など、大都市ならではの課題が山積している。本プロジェクトは、地域の防災力や災害対応能力の育成、安心して暮らすことのできる生活環境のマネジメントの方法などを検討し、地域と大学とが協力しながら安全安心の都市づくりを推進していく。

COC活動の成果

■ 災害に強い都市づくり

2016年度は木造密集市街地や海拔ゼロメートル地帯などの災害脆弱地域が広がる江東区全域を視野にいれながら、豊洲地域を拠点とした防災まちづくりの体制づくりや空間づくりについて検討を行った。学部4年次の「卒業研究」や大学院の「修士研究」のカリキュラムとして、豊洲地区のオフィスビルや商業施設、マンション、大学などの様々な施設の災害対応能力や相互の連携体制についてフィールドワークを主体とした調査を行った。防災や暮らしの環境に関わるエリア情報の集約・マップ化を通じ、これまで個々の高層マンションごとに、あるいは企業のオフィスビルごとに整理されていた情報を一元化し、地域の方々と共にできる空間情報として整理した。活動成果をもとに、地域住民や地元企業の方々への情報発信を行い、江東区の災害に強い都市づくりに向けた体制づくりを進めていくために、ホームページなどを通して情報発信していくことを検討している。

■ 安心して暮らすことのできる生活環境づくり

急激な土地利用の転換をとまなう都市づくりの過程において発生する諸課題について、プロジェクトに参画する専任教員が相互に連携しながら調査研究を進めている。建築計画・都市計画の分野においては、豊洲地域におけるオフィスビルやマンションなどの有効空地における子供の遊び場環境の創出に関する研究や、高齢者が安心して住み続けることのできる高層住居の提案などを行った。建築環境・都市環境の分野においては、急激なインフラ整備や住宅供給に応じた都市環境エネルギーの安定供給などの研究を進めている。これらの研究蓄積を活用しながら安全安心の都市づくりを推進していく。

■ 多文化共生のまちづくり

東京臨海地域では、外国人居住者や外国人観光客の増加により、多様な主体によるコミュニティ形成や異文化間の相互理解が生活環境マネジメントの主要なテーマになりつつある。2016年度はインド人居住者が集積する西葛西地区を対象として、多文化共生のまちづくりについて調査研究を行った。学部3年次の「建築ゼミナール2」のカリキュラムを活用しながら、外国人支援団体やインド人会などの協力を得ながらフィールドワークやインタビュー調査を行い、課題や可能性について整理した。そして、多様な人種が共生するまちづくりの提案を取りまとめた。



オフィスビルでのヒアリング調査の様子



西葛西地区でのまちづくりレクチャ



西葛西地区でのフィールドワークの様子